

(様式1)

令和元年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	児童生徒一人一人の障害の状態や特性に応じて、資質・能力の育成をめざし、自立と社会参加の達成を図る。
------------	---

(2) 現状と課題	小学部23名、中学部24名、高等部52名、計99名が在籍し、そのうち21名が隣接するはまゆり学園に在園している。認可学級は23学級であるが、指導学級として編成している21学級のうち12学級が重複学級となっており、障害の重度重複、多様化が進んでいるほか、高等部在籍数も増加傾向にあることから、児童生徒一人一人に応じた指導の更なる充実が求められている。 むつ下北地区唯一の特別支援学校であることから、就学や教育などに関する学校等や保育所、市町村教育委員会への支援のほか、移行支援に関する施設や事業所との連携について、更なる充実が求められている。
-----------	---

(3) 重点目標	1 児童生徒一人一人のニーズに応じた指導の展開
	2 キャリア教育の視点を生かした指導の充実
	3 地域との連携による特別支援教育の推進
	4 交流及び共同学習の推進
	5 生涯スポーツの振興

(4) 結果の公表	<ul style="list-style-type: none">・令和2年1月31日(金)に開催した参観日において、学校評価の結果の説明及び要望事項への回答を行った。・令和2年2月6日(木)に開催した学校評議員会において、教職員による自己評価と保護者アンケートの結果を説明するとともに、学校関係者評価を行った。・来年度4月に行われるPTA総会において、令和2年度学校評価結果報告書等の説明を行うとともに、同内容を学校ホームページにて公開する。
-----------	---

学校整理番号	特20
学校名	青森県立むつ養護学校
対象障害種別	知的・肢体

自己評価実施日	令和2年1月16日(木)
学校関係者評価実施日	令和2年2月6日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
<ul style="list-style-type: none">・学校評議員6名(施設関係者3名、企業関係者1名、元PTA会長1名、地域住民1名)・保護者(PTA会長)1名・計7名

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の展開	①児童生徒の実態に即した指導内容表の策定 ②ICFを活用した自立活動の指導の充実 ③複数配置された学校看護師による医療的ケアの実施	おおむね達成 ・全教職員による取組により、成果の共有が授業改善につながっている。	B	肢体不自由児の視線入力装置など一人一人のニーズに応じた教材教具を整備してほしい。 引き続き、子どもたちの実態に合わせた丁寧な関わりを継続してほしい。	教育課程の整備と児童生徒の実態に即した指導を適切に行う。 児童生徒のニーズに合わせた教材教具の整備に努める。

2	キャリア教育の視点を生かした指導の充実	①県特別支援学校技能検定発表会への参加 ②近隣施設における体験活動の実施 ③教員及び保護者のキャリア教育に関する理解の推進	おおむね達成 ・生徒の意識が高まり、授業への取組意識のみならず将来の自立や社会参加に関する意識が高まった。	B	昨今の気象状況や地域の電力事業の状況を考え、防災に関する意識を育む教育活動を取り上げること検討してほしい。 技能検定にむけての授業の継続に努めてほしい。	10月22日の大会に向け、授業における取り組みを継続する。 キャリア教育に関する理解啓発と一貫した指導内容の整備と学習活動の充実を図る。
3	地域との連携による特別支援教育の推進	①下北地区こども発達相談連絡協議会の開催 ②教育相談による小中高等学校等への支援	おおむね達成 ・全学部において、地域の人材や資源を活用した学習が行われた。 ・むつ下北地域の特別支援教育の拠点として、関係機関と連携した取組が行われた。	B	協議会における事例研修は、こどもにかかわる者として有益であった。地域全体で子どもたちへかかわる力を高めていくために、研修会の継続と広く周知していくことに努めてほしい。	関係機関や小中高校との連携強化のため、こども発達相談連絡協議会の内容の充実と関係機関への周知を図る。
4	交流及び共同学習の推進	①地域の保育園、小・中・高校及び近隣住民との交流活動の実施 ②居住地校交流の実施	おおむね達成 ・スポーツ交流のほか、外部講師による講演を小・中学校と合同で実施することにより、相互理解の深まりが見られた。 ・居住地校交流は小学部児童8名、中学部生徒1名が実施した。	B	引き続き地域との交流への継続と充実を図ってほしい。 居住地校交流への取り組みについて、保護者へ継続して説明することに努めてほしい。	関係校や地教委との連絡調整を適切に行い、内容の充実を図る。 保護者への居住地校交流の取り組みの状況説明を継続して行う。
5	生涯スポーツの振興	①青森県特別支援学校総合スポーツ大会・プレ大会への参加 ②県障害者スポーツ大会への参加	おおむね達成 ・プレ大会への参加にあたり、中・高等部と連携した取組がなされた。 ・陸上競技：中学部1名、高等部9名。 フライングディスク競技：高等部1名。 卓球：高等部6名の参加があった。	B	クラブ活動の継続と充実に努めてほしい。 生涯スポーツへの取り組みを継続するとともに、卒業後の取り組みについても保護者への理解啓発を進めてほしい。	中・高等部におけるスポーツ大会への参加に関する学習活動や交流及び共同学習の取組と連携して進める。 授業における取組を継続するとともに、保護者への理解啓発を図る。

(11) 総括	<p>学校経営の重点として設定した5点については、今年度の活動においても一定の成果が見られたが、課題を成果に転じつつ更なる充実につなげられるよう、次年度においても継続して取り組むことが必要であると思われる。</p> <p>教職員による自己評価では、昨年度から評価を下げた項目が「適切な学習内容」「各計画の活用」「連絡帳等による情報提供」「教職員間の連携」の4項目あり、これらの項目については学校課題として捉え、教育活動を充実させていく必要がある。</p> <p>保護者の評価点4及び3の項目が9割以上で、今年度の教育活動についてはおおむね評価をいただいております、引き続き教育活動を充実させていく必要がある。</p>
---------	--

(様式1)

平成30年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1)学校教育目標	児童生徒一人一人の能力や特性等に応じて、人間として調和のとれた育成をめざすとともに、自立と社会参加の達成を図る。
(2)現状と課題	小学部22名、中学部21名、高等部49名、計92名が在籍し、そのうち19名が隣接するはまゆり学園に在園している。認可学級は22学級であるが、指導学級として編成している19学級のうち12学級が重複学級となっており、障害の重度重複、多様化が進んでいるほか、高等部在籍数も増加傾向にあることから、児童生徒一人一人に応じた指導の更なる充実が求められている。 むつ下北地区唯一の特別支援学校であることから、就学や教育などに関する学校等や保育所、市町村教育委員会への支援のほか、移行支援に関する施設や事業所との連携について、更なる充実が求められている。
(3)重点目標	1 児童生徒一人一人のニーズに応じた指導の展開 2 キャリア教育の視点を生かした指導の充実 3 地域との連携による特別支援教育の推進 4 交流及び共同学習の推進 5 生涯スポーツの振興
(4)結果の公表	・平成31年2月1日(金)に開催した参観日において、学校評価の結果の説明及び要望事項への回答を行った。 ・平成31年2月7日(木)に開催した学校評議員会において、教職員による自己評価と保護者アンケートの結果を説明するとともに、学校関係者評価を行った。 ・来年度4月に行われるPTA総会において、平成30年度学校評価結果報告書等の説明を行うとともに、同内容を学校ホームページにて公開する。

学校整理番号	特20
学校名	青森県立むつ養護学校
対象障害種別	知的・肢体
自己評価実施日	平成31年1月17日(木)
学校関係者評価実施日	平成30年2月7日(木)

(9)-イ 学校関係者評価委員会の構成
・学校評議員6名(施設関係者3名、企業関係者1名、元PTA会長1名、地域住民1名) ・保護者(PTA会長)1名 ・計7名

自 己 評 価				学校関係者評価	(10)次年度への課題と改善策	
番号	(5)評価項目	(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況	(8)目標の達成度		(9)-ア 学校関係者からの意見・要望・評価等
1	・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の展開	①児童生徒の実態に即した指導内容表の策定 ②複数配置された学校看護師による医療的ケアの実施	おおむね達成 ・全教職員による取組により、成果の共有が授業改善につながっている。 ・校内体制の整備により、学校行事等が保護者の理解のもと円滑に実施された。	B	児童生徒個々の願いを達成するために保護者や関係機関等の連携を図るとともに医療的ケアの適切な運用と充実させるため、取組の継続と専門性の向上に努めてほしい。	平成32年度からの新学習指導要領完全実施に向け、教育課程の整備や指導内容表の活用を適切に行うとともに、校内外の研修をとおして教職員の専門性向上に積極的に取り組む。

2	・キャリア教育の視点を生かした指導の充実	①県特別支援学校技能検定発表会への参加 ②近隣施設における体験活動の実施	おおむね達成 ・生徒の意識が高まり、授業への取組意識のみならず将来の自立や社会参加に関する意識が高まった。	B	早期からの児童生徒の進路意識を喚起するとともに、引き続き地域の人材を活用した、丁寧な進路指導に努めてほしい。	10月24日の大会に向け、授業における取り組みを継続する。 学習活動への共通理解と一貫した指導の充実を図る。
3	・地域との連携による特別支援教育の推進	①下北地区こども発達相談連絡協議会の開催 ②教育相談による小中高等学校等への支援	おおむね達成 ・むつ下北地域の特別支援教育の拠点として、関係機関と連携した取組が行われた。 ・高等学校における特別支援教育推進事業への取組により、高等学校との連携が深まった。	B	保護者や小中高等学校における特別支援教育推進を図るため、引き続き連携を深めるとともに、当事者が参加できる内容の検討が必要である。	関係機関や小中高校との連携強化のため、各連絡協議会の内容の充実を図る。
4	・交流及び共同学習の推進	①地域の保育園、小・中・高校及び近隣住民との交流活動の実施 ②居住地校交流の実施	おおむね達成 ・継続して取り組んでいることに加え、障害者スポーツを取り入れることにより、従来の内容をさらに充実させることができ、相互理解の深まりが見られた。	B	居住地校交流に引き続き取り組むほか、近隣の保育園や小中学校などにおける交流活動の充実を図ってほしい。	関係校や地教委との連絡調整を適切に行い、内容の充実を図る。
5	・生涯スポーツの振興	①クラブ活動・部活動の実施 ②県障害者スポーツ大会への参加	おおむね達成 ・児童生徒の運動への関心が高まり、大会参加者が昨年度を上回った。 ・全国障害者スポーツ大会フライングディスク(アキュラシー競技)では3位入賞があった。	B	就労に必要な体力作りとしてだけでなく、余暇の過ごし方としてスポーツへの取組を進めてほしい。	授業における取組を継続するとともに、保護者への理解啓発を図る。

(11)総括	<p>教職員の評価点4及び3の項目が約4割であり、全ての項目において昨年度から評価を下げていることから、教育活動の充実に向けての取組をしていく必要がある。</p> <p>保護者の評価点4及び3の項目が8割以上であるものの、昨年度から評価を下げた項目が10項目であった。併せて、保護者は、「保護者自身」の満足度を低く捉えており、教職員は「子ども本人の満足度」に比べ「保護者の満足度」を低くとらえていることから、保護者の安心感につながるよう活動の充実を努める必要がある。</p> <p>学校運営については、緊急事態への対応や教職員の業務について、改善に関する具体的な検討を行い、適切に周知する必要がある。</p>
--------	--

(様式1)

平成29年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1)学校教育目標	児童生徒一人一人の能力や特性等に応じて、人間として調和のとれた育成をめざすとともに、自立と社会参加の達成を図る。
(2)現状と課題	小学部22名、中学部21名、高等部50名、計93名が在籍し、そのうち20名が隣接するはまゆり学園に在園している。認可学級は23学級であるが、指導学級として編成している20学級のうち11学級が重複学級となっており、障害の重度重複、多様化が進んでいるほか、高等部在籍数も増加傾向にあることから、児童生徒一人一人に応じた指導の更なる充実が求められている。 むつ下北地区唯一の特別支援学校であることから、就学や教育などに関する学校等や保育所、市町村教育委員会への支援のほか、移行支援に関する施設や事業所との連携について、更なる充実が求められている。
(3)重点目標	1 児童生徒一人一人のニーズに応じた指導の展開 2 キャリア教育の視点を生かした指導の充実 3 地域との連携による特別支援教育の推進 4 交流及び共同学習の推進 5 生涯スポーツの振興
(4)結果の公表	・平成30年2月2日(金)に開催した参観日において、学校評価の結果の説明及び要望事項への回答を行った。 ・平成30年2月7日(水)に開催した学校評議員会において、教職員による自己評価と保護者アンケートの結果を説明するとともに、学校関係者評価を行った。 ・来年度4月に行われるPTA総会において、平成29年度学校評価結果報告書等の説明を行うとともに、同内容を学校ホームページにて公開する。

学校整理番号	特19
学校名	青森県立むつ養護学校
対象障害種別	知的・肢体

自己評価実施日	平成30年1月17日(水)
学校関係者評価実施日	平成30年2月7日(水)

(9)-イ 学校関係者評価委員会の構成
・学校評議員6名(施設関係者3名、企業関係者1名、元PTA1名、地域住民1名) ・保護者(PTA会長)1名 ・計7名

自 己 評 価					学校関係者評価		(10)次年度への課題と改善策
番号	(5)評価項目	(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況	(8)目標の達成度	(9)-ア 学校関係者からの意見・要望・評価等		
1	・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の展開	①年3回の研究授業及び授業検討会の実施 ②複数配置された学校看護師による医療的ケアの実施	おおむね達成 ・全教職員による取組により、成果の共有が授業改善につながっている。 ・校内体制の整備により、学校行事等が保護者の理解のもと円滑に実施された。	B	児童生徒個々に異なる障害の特性や状態に応じた指導を充実させるため、取組を継続し、専門性の更なる向上に努めてほしい。		平成32年度からの新学習指導要領完全実施に向け教育課程の整備を適切に行うとともに、校内外の研修をとおして教職員の専門性向上に積極的に取り組む。

2	・キャリア教育の視点を生かした指導の充実	①県特別支援学校技能検定発表会への参加 ②近隣施設における体験活動の実施	おおむね達成 ・生徒の意識が高まり、授業への取組意識のみならず将来の自立や社会参加に関する意識が高まった。	B	早期から児童生徒や保護者の進路意識を喚起するとともに、引き続き関係機関と連携し、丁寧な進路指導を進めてほしい。	小中高の一貫した進路指導の充実に向け各学部における活動の充実を図るとともに、10月25日の大会に向け授業における取り組みを継続する。
3	・地域との連携による特別支援教育の推進	①就労・支援ネットワーク連絡協議会の開催 ②教育相談による小中学校等への支援	おおむね達成 ・むつ下北地域の特別支援教育の拠点として、関係機関と連携した取組が行われた。	B	保護者や小中学校特別支援学級担当者の意識啓発を促すため、当事者が参加できるような内容の検討が必要である。	ネットワーク参加事業所の拡充や小中学校との連携強化のため、各連絡協議会の内容の充実を図る。
4	・交流及び共同学習の推進	①地域の保育園、小・中・高校及び近隣住民との交流活動の実施 ②居住地校交流の実施	おおむね達成 ・継続して取り組んでいることに加え、障害者スポーツを取り入れることにより、従来の内容をさらに充実させることができ、相互理解の深まりが見られた。	B	居住地校交流に引き続き取り組むほか、近隣施設における交流活動を小学部から行うなどにより取組の充実を図ってほしい。	従来の取組に加え、児童生徒の発達の段階に応じた新たな取組を検討するとともに、関係校や市町村教育委員会との連絡調整を適切に行い、内容の充実を図る。
5	・生涯スポーツの振興	①クラブ活動・部活動の実施 ②県障害者スポーツ大会への参加	おおむね達成 ・児童生徒の運動への関心が高まり、大会参加者及び入賞者数ともに昨年度を上回った。	B	就労に必要な体力作りとしてだけでなく、地域のサークル活動を利用するなど、余暇の充実を観点とした取組を進めてほしい。	身体的な健康の保持増進との観点に余暇活動や心理的精神的な安定との側面を加え、授業における取組を継続するとともに、保護者への理解啓発を図る。

(11)総括	<p>保護者及び教職員ともに評価点4及び3の項目が9割以上であること、昨年度から評価を下げた項目が教職員1項目、保護者6項目であることなどから、今年度の教育活動についてはおおむね良好な評価をいただいております。引き続き教育活動を充実させていく必要があります。</p> <p>保護者は、「子ども本人」と「保護者自身」の満足度を低く捉えており、教職員は「子ども本人の満足度」に比べ「保護者の満足度」を低くとらえていることから、保護者の安心感につながるよう活動の充実を努める必要があります。</p> <p>学校運営については、緊急事態への対応や教職員の業務について、改善に関する具体的な検討を行い、適切に周知する必要があります。</p>
--------	---

(様式1)

平成28年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1)学校教育目標	児童生徒一人一人の能力や特性等に応じて、人間として調和のとれた育成をめざすとともに、自立と社会参加の達成を図る。
(2)現状と課題	小学部25名、中学部20名、高等部40名、計85名が在籍し、そのうち20名が隣接するはまゆり学園に在園している。認可学級は23学級であるが、指導学級として編成している21学級のうち14学級が重複学級となっており、障害の重度重複、多様化が進んでいるほか、高等部在籍数も増加傾向にあることから、児童生徒一人一人に応じた指導の更なる充実が求められている。 むつ下北地区唯一の特別支援学校であることから、就学や教育などに関する学校等や保育所、市町村教育委員会への支援のほか、移行支援に関する施設や事業所との連携について、更なる充実が求められている。
(3)重点目標	1 児童生徒一人一人のニーズに応じた指導の展開 2 キャリア教育の視点を生かした指導の充実 3 地域との連携による特別支援教育の推進 4 交流及び共同学習の推進 5 生涯スポーツの振興
(4)結果の公表	・平成29年2月3日(金)に開催した参観日において、学校評価の結果の説明及び要望事項への回答を行った。 ・平成29年2月13日(月)に開催した学校評議員会にPTA会長も出席いただき、教職員による自己評価と保護者アンケートの結果を説明するとともに、学校関係者評価を行った。 ・来年度4月に行われるPTA総会において、平成28年度学校評価結果報告書等の説明を行うとともに、同内容を学校ホームページにて公開する。

学校整理番号	特19
学校名	青森県立むつ養護学校
対象障害種別	知的・肢体

自己評価実施日	平成29年1月18日(水)
学校関係者評価実施日	平成29年2月13日(月)

(9)-イ 学校関係者評価委員会の構成
・学校評議員6名(施設関係者3名、企業関係者1名、元PTA1名、地域住民1名) ・保護者(PTA会長)1名 ・計7名

自 己 評 価					学校関係者評価	(10)次年度への課題と改善策
番号	(5)評価項目	(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況	(8)目標の達成度	(9)-ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	・個別の教育支援計画、個別の指導計画等に基づく指導・支援の充実	①各様式の整備と説明会の実施 ②校内研究の推進 ③高等部授業への外部講師の活用	おおむね達成 外部講師による授業や研修会により専門性が向上した。	B	年齢の若い教職員が多いこともあるが、明るく、てきぱきと行動し、児童生徒のやる気をよく引き出している。 外部講師の活用や、増加する発達障害への指導方法・内容の検討など、積極的に取り組んでほしい。また、教育の充実に対する教職員の意識が高く、よりよいものにしていく意識が高いが、勤務時間超過につながらないように、管理職は労いとフォローアップに留意してほしい。	各計画については、学習指導要領を踏まえた作成と活用に資するための研修会を開催するほか、学校課題と関連した校内研究を行うなど教職員の専門性を向上させるような取組を充実する必要がある。 併せて、勤務時間の縮減を図るため、会議の持ち方やチームティーチングの在り方など、校務に関する具体的な方策を検討し、教職員で共有していく必要がある。

2	・技能検定を活用した指導の充実	①高等部生徒の全員参加 ②中学部生徒も参加した校内発表会の実施	達成 生徒の将来の自立や社会参加に関する意識が高まった。	B	発表会に向けた取組だけでなく、はまゆり学園や近隣の施設へ出向いて実際に身に付けた技術を発揮することは大変素晴らしいので、今後も継続して取り組んでほしい。	近隣施設での体験活動については、今年度の成果等を踏まえ実施事業所を拡充するなど、取組の充実を図る必要がある。
3	・就労・生活支援ネットワークによる保護者、事業者及び福祉施設等との連携の充実 ・下北地区こども発達相談連絡協議会による関係機関との連携の充実	①ネットワーク連絡協議会の開催 ②各地区活動への支援	おおむね達成 むつ下北地域の特別支援教育の拠点として、関係機関と連携した取組が行われた。	B	就労・生活支援ネットワークの取組は、地域との結びつきが弱くなりがちな卒業生にとって、大変ありがたい取組であるので今後も継続してほしい。 こども発達相談連絡協議会の取組は、むつ下北地域の実情を踏まえたものであり、小中高校との連携など、さらに活動を充実させてほしい。	就労・生活支援ネットワークについては、組織化2年目となるため、参加事業所数の拡大と教育以外の行政機関等の参加など、組織強化のための取組が必要になる。 こども発達相談連絡協議会については、従来の就学先決定のための相談支援に加え、中学校及び高等学校における特別支援教育の充実や、労働分野と連携した移行支援の充実に係る取組が必要となる。
4	・居住地校交流の計画的・組織的な推進	①むつ市立大畑小学校及びむつ市立第三田名部小学校との取組	おおむね達成 小学部児童3名による年間5回程度の実施となった。	B	実施している本校児童はもちろんだが、居住地校の障害のない児童生徒にとっても大変意義のある取組であり、今後もさらに実施人数を増やしてほしい。	新たに入学する児童生徒への取組のほか、在校生についても実施者の拡充が必要となる。併せて、手続きに関する様式等を含めた実施マニュアルを整備していく必要がある。
5	・障害者スポーツ大会等への計画的な参加	①県障害者スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会への参加	未達成 県大会は中学部2名、高等部6名、全国大会は高等部1名が参加した。	C	体力のない児童生徒が多いと感じるが、この取り組みを通して、就労等に向けた体力づくりのほか、社会性を育成したりやルールを守る態度を育てたりするなどの効果も期待できるため、活動の充実を目指してほしい。	来年度から新たに実施するクラブ活動(部活動)により、児童生徒のスポーツへの関心を高めるとともに、肥満の解消など健康教育の充実を図る必要がある。

(11)総括	<p>保護者、教職員及び学校関係者によるアンケートの評価点平均がそれぞれ3以上であることから、今年度の教育活動についてはおおむね良好な評価を得ることができたと思う。</p> <p>しかし、学部が進むにつれ保護者の満足度が低下し、教職員は「子ども本人の満足度」に比べ「保護者の満足度」を低くとらえていることから、保護者の安心感につながるよう活動の充実に取り組む必要があると思われる。</p> <p>また、学校運営については、校務分掌組織の見直しや教職員としての適切な勤務に関する研修会の実施などにより、教職員個々の業務改善に対する意識を高めるとともに、地域住民及び関係機関との連携強化に継続的に取り組むことにより、教育活動の更なる充実に取り組む必要がある。</p> <p>学校経営の重点として設定した5点については、今年度の活動においても一定の成果が見られたが、課題を成果に転じつつ更なる充実につなげられるよう、次年度においても継続して取り組むことが必要であると思われる。</p>
--------	---